

佐賀県の地震活動概況 (2024年2月)

令和6年3月6日
佐賀地方気象台

【2月の地震活動概況】

2月に佐賀県内で震度1以上を観測した地震は1回(下図領域外)でした(1月は1回)。

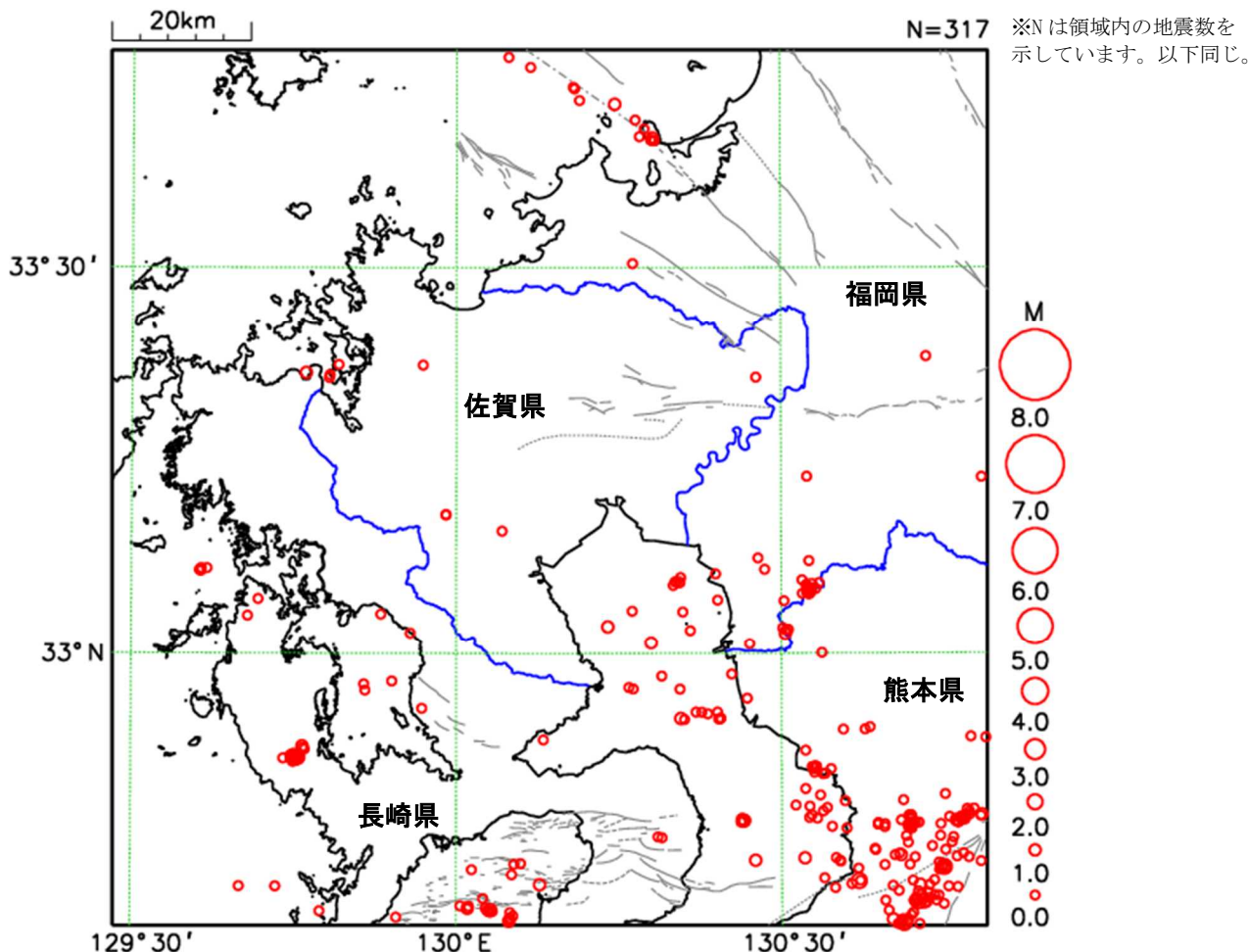


図1 震央分布図 (2024年2月1日~29日、深さ30km以浅、 $M \geq 0.0$)
灰色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示しています。

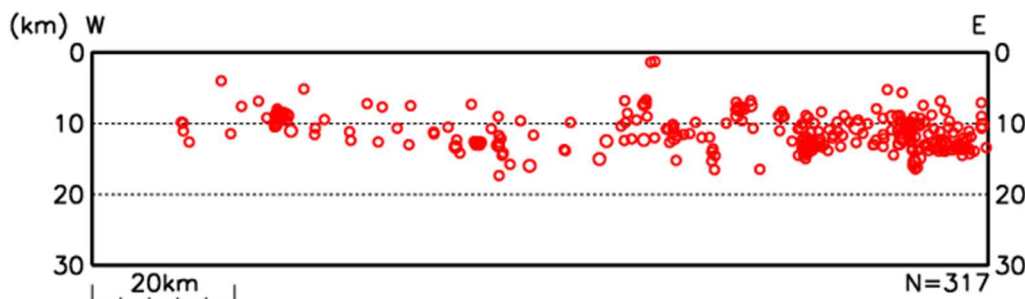


図2 断面図 (2024年2月1日~29日、深さ30km以浅)
震央分布図を南の方から見た断面図です。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点(よしが浦温泉、飯田小学校)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。

伊予灘（情報発表に用いた震央地名は愛媛県南予）【1頁震央分布図領域外】

26日15時24分に伊予灘でM5.1の地震（深さ47km）が発生し、愛媛県の今治市、松山市、広島県呉市などで震度4を観測したほか、九州地方から近畿地方にかけて震度3～1を観測しました。佐賀県では、佐賀市、神埼市、小城市などで震度1を観測しました（図3、表1）。

今回の地震の震源付近（図5領域b）では、2012年12月22日にM4.5の地震（深さ47km、最大震度3）が発生し、佐賀県では佐賀市、みやき町で震度1を観測しました（図4～図6）。

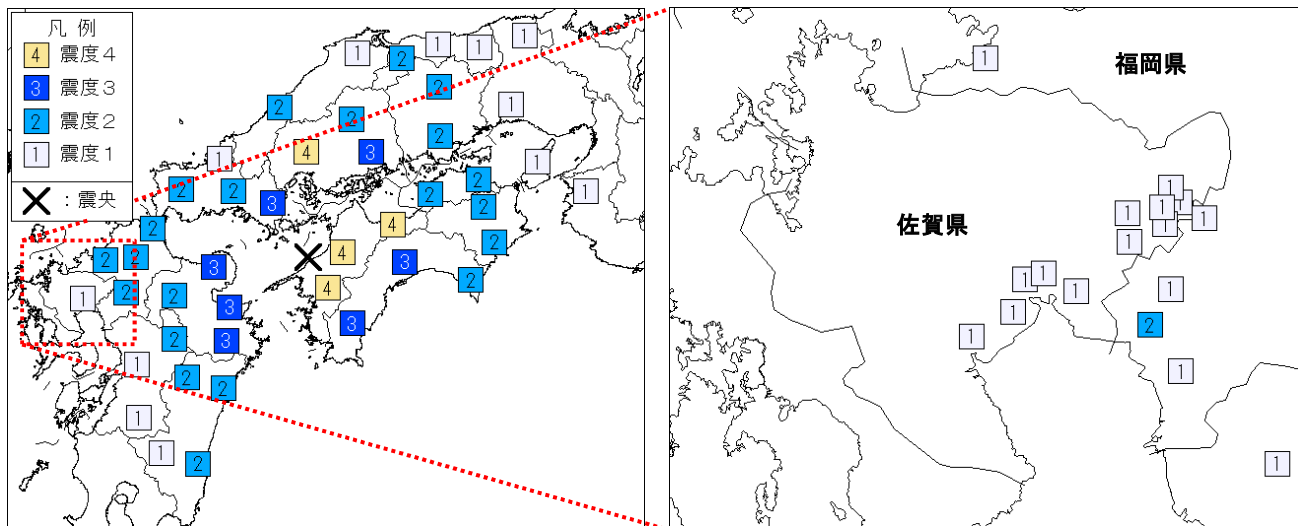


図3 震度分布図 26日15時24分 M5.1
(左図は地域別、右図は観測点別)

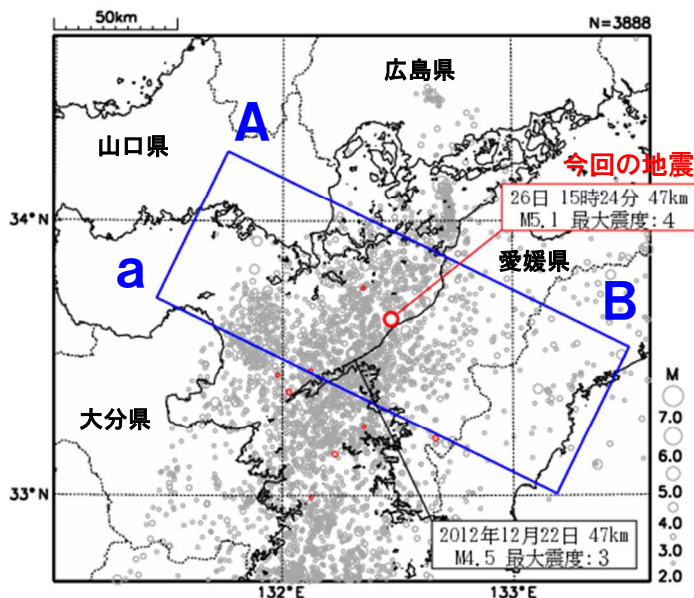


図4 震央分布図
(1997年10月1日～2024年2月29日、
深さ30～100km M≥2.0)

※2024年2月の地震を赤色で表示

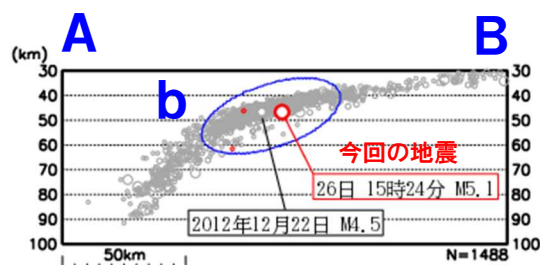


図5 図4領域a内の断面図（A－B投影）

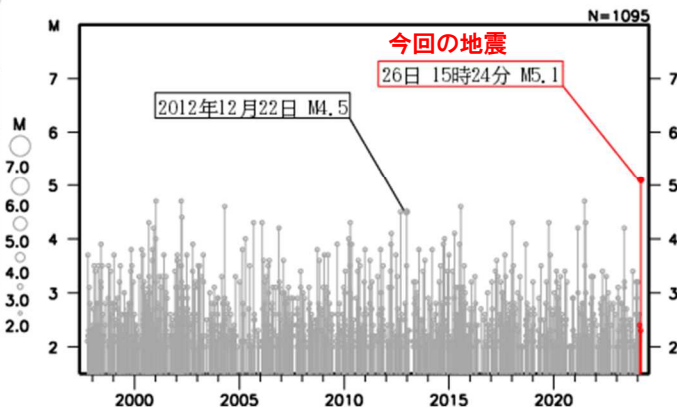


図6 図5領域bの地震活動経過図

表1 佐賀県内の震度観測点で震度1以上を観測した地震 (2024年2月1日~29日)

地震発生日時刻	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
2月26日15時24分	伊予灘	33° 38.5' N	132° 28.2' E	47km	M5.1
佐賀県	震度 1 : 佐賀市東与賀*, 佐賀市久保田*, 上峰町坊所*, 白石町福富*, 白石町有明*, みやき町中原*, みやき町三根*, みやき町北茂安*, 小城市芦刈*, 神崎市千代田*, 神崎市神埼*				

- ・「*」の付いた地点は、佐賀県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点です。
- ・地震の震源要素 (緯度・経度・深さ・M) は暫定値であり、データは後日変更することがあります。

南海トラフ地震 ～その時に備えて～

今から13年前、2011年3月11日に東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)が発生し、強い揺れと高い津波により東日本に甚大な被害をもたらしました。西日本でも「南海トラフ地震」により大きな被害が生じるおそれがあります。

南海トラフ地震は、駿河湾から日向灘沖にかけてのプレート境界を震源域として、概ね100～150年間隔で繰り返し発生し、大きな被害をもたらしてきた大規模地震です。

前回の南海トラフ地震が発生してから約80年が経過しており、次の南海トラフ地震発生 of 切迫性が高まっています。

次の南海トラフ地震はいつ起きてもおかしくありません。

南海トラフ地震の発生可能性が通常と比べて相対的に高まったと評価された場合等に、気象庁は「南海トラフ地震臨時情報」を発表します。

政府や地方公共団体からの呼びかけ等に応じた防災対応をとりましょう。

ただし、南海トラフ地震の発生は不確実性を伴うため、情報が発表されても地震が発生しない場合や、情報の発表がないまま突発的に南海トラフ地震が発生する場合も考えられます。このため、南海トラフ地震に適切に対応するためには、日頃から地震への備えをしておくことが重要です。



南海トラフ地震臨時情報

キーワード

- 調査中
- 巨大地震警戒
- 巨大地震注意
- 調査終了

- (発表条件)
- 南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
 - 観測された異常な現象の調査結果を発表する場合
 - 観測された異常な現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
 - 南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界においてM8.0以上の地震が発生したと評価した場合
 - 南海トラフ地震の想定震源域内のプレート境界においてM7.0以上、M8.0未満の地震が発生したと評価した場合
 - 想定震源域のプレート境界以外や、想定震源域の海溝軸外側50km程度までの範囲でM7.0以上の地震が発生したと評価した場合
 - ひずみ計等で有意な変化として捉えられる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合
 - 巨大地震警戒、巨大地震注意のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合

南海トラフ地震関連解説情報

- 観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況の推移等を発表する場合
- 「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会における調査結果を発表する場合(ただし臨時情報を発表する場合を除く)

自らの命、大切な人の命を守るために、今から準備しておきましょう。

地震の発生に備えよう

<input type="checkbox"/> 家具の固定 	<input type="checkbox"/> 非常用持ち出し袋の準備 	<input type="checkbox"/> 水や食料の備蓄
<input type="checkbox"/> 避難場所や避難経路の確認 	<input type="checkbox"/> 感震ブレーカーの設置 <p>コンセントタイプ 分電盤タイプ(後付型)</p>	<input type="checkbox"/> 建物の耐震化

南海トラフ地震に関することは、以下の気象庁ホームページをご覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/nteq.html>